

## 第2回鎌倉市文学館指定管理者選定委員会会議録

日時：令和2年（2020年）12月14日（月）

午後1時30分～午後4時20分

場所：鎌倉芸術館 集会室

出席委員：伊藤委員長、猿渡副委員長、鈴木委員、長坂委員、村井委員  
事務局：藤田文化人権課担当課長、崎野文化人権課課長補佐、竹下職員、  
木村職員、高宮職員

### 1 開会

### 2 会議の運営方法等について

#### (1) 会議の成立

5名の委員の出席があり、鎌倉市文学館指定管理者選定委員会規則第6条第2号の規定により、本選定委員会が成立していることを確認した。

#### (2) 予定の確認

ヒアリングは、提案事項など公開できる事項と、法人の人事、給与・経理など非公開情報に関する事項の2部に分けて行い、提案者のプレゼンテーションと、提案事項についてのヒアリングを公開とし、傍聴可能とすることを確認した。

議事録は要点筆記とし、議事録・採点表は公開の対象とするが、個人名は記載せずに「委員」と表記する。議事録については委員に事前に確認し、採点表、選定結果報告書、委員名簿とともに公表することを確認した。

### 3 書類審査について

事務局：事務局において、提出された法人に関する応募書類を確認し、提案要項で提出を義務付けている書類の記載漏れや不足などの不備はなく、記載内容についても適切であると判断した。

委員長：書類審査において問題なかったことを確認する。

全委員：意義なし

### 4 ヒアリング方法の確認について

事務局：提案団体が入場後、事務局から団体にヒアリングの進行方法について説明し、15分間のプレゼンテーションを行う。その後、各委員によるヒアリングを行う。ヒアリングの時間は、提案事項については30分程度、非公開情報については15分程度を予定している。

上記について、事務局から提案し、委員の了承を得た。

委員長：ヒアリングにおける質問内容や質問順を確認する。運営関係を中心に確認した後、財務等の確認をしていく。

委員：提案書のエコミュージアム構想について、鎌倉市は文学館にどの程度関わってほしいのか、またどのレベルまで進んでいるか。提案書の31頁に文学専門図書館としての機能強化とあるが、鎌倉市から要望したものなのか。ミュージアムと思っていたので違和感を覚えた。

事務局：文化財部でエコミュージアムの考え方を導入する構想があり、既存の博物館施設等を中核施設とし、文化施設をサテライト（衛星施設）として位置づけており、具体的な基本計画、実施計画はなく令和4年度までに策定される。

鎌倉市として文学図書館としての運営提案を求めている。

委員：鎌倉市の資料保存の管理の内容について、紙や封筒をクリアフォルダーで保存すると書かれているが、中性紙を使用して保存することが一般的だと思うので、改めたほうがよい。

提案書1頁・2頁の「第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画」の中で、「SDGs」「共創」「共生」があげられていて、基本方針2の「つながる」に記載があるべきではないか。

12頁・60頁の危機管理について、自然災害に対しての具体的な対応策が書かれていない。テロ対策が書かれていないので確認したい。

15頁の外部専門家による第3者評価はまだ行われていないのか、自己評価には個人目標管理システムがあるのか、他の文学館との比較評価はどのように行われるのか。

18頁の収入の部にその他 展示企画料とあるが、観覧料の間違いではないか。

29頁の「様々な人」と書かれているが、多国籍や在留外国人という観点が抜けているのではないか。

34頁の普及の「新たな試み」に新しい生活様式への対応でアウトリーチやオンラインについてが書かれていないのは、なぜか。

41頁の利用案内方法の中で、多文化共生社会の実現に向けた方策が書かれているが項目はこれでよいのか。

42頁のホームページ・館内案内について、ユニバーサルデザインについての考え方が抜けているがどう考えているか。

47頁の商用撮影料の値上げとあるが、値下げして利用数を増やした方がよいのではないか。

49頁の市民や地域の活動とあるが実績はあるのか。52頁の受付案内業務の中に障害者への対応がない。車椅子、筆談等、現状はどうしているのか。

61頁の資格保持者選任の必要有無についてよくわからないので説明してほしい。

62頁の燻蒸の回数等について詳しく聞きたい。

委員：非常勤職員の勤務日数と業務量が給与に見合っているのか、非常勤職員は正規雇用への道が開かれているのか。

職員の自己研修の機会と便宜が設けられているか。若手学芸員の育成は具体的にはどのように行われているか。

館の活動、運営について、職員から出ている課題・問題点はあるのか。

市民ボランティアについて、どのようなシステムになっているか、現在登録されている人数や活動期間、内容、研修等ボランティアの活動の現状を確認したい。

市民との連携・協働の実例はあるのか。外国人入館者の全体での割合。

ホームページの多言語化の予定、ホームページの方針、方向性を確認したい。

委員：提案書 21 頁に人件費の内訳が記載されているが、総括責任者の賃金があまり多くないのはどうしてか。

多言語化に関して、学芸員の言語能力について、どのくらいの種類の言語が使えるのか確認したい。

委員長：労務関係の書類は特に問題ないか。

委員：書類を点検する中では、特に問題はなかった。

委員：健全な運営状態か。

委員：特に労務上の問題はなかった。

委員長：これから財政管理を中心に協議するが他にはないか。

委員：17 頁の収支予算書の中で、指定管理を行う令和 3 年度、令和 4 年度の 2 年間で、限られた収入と限られた支出がとてもタイトになっているので、何か特別にアクションする時に担保となるようなものはあるのか。特別損益のようなものが少しでもあるのか聞きたい

委員長：文学に関心を持つ高校生についてほとんど触れられていないのが気になる。

只今、各委員から出された質問項目を確認する。

多言語化について国籍別、言語別内訳の確認。

中央図書館との役割分担。

総括責任者の給料が少ないのはなぜか。

コロナ禍は来年も続くと予想し、安定した収入の確保について確認したい。

SDGs や共創・共生は具体的にどのようなものか。

小学生・中学生のことは書かれているが、高校生・大学生の姿が見えないのはなぜか。

外国人・障害者等、多文化言語の問題・対策について、地域・市民との連携、ボランティアの問題、資料の保管の問題などとなる。

労務関係、財政関係は非公開のほうが望ましいのではないか。収入・財政基盤についても非公開のほうがよいのではないか。

非常勤職員の待遇について、専門図書館について、ホームページ等の広報の問題などを公開のほうで触れてほしい。

他に不足する項目があれば私から補足する。質問等については右回りに順番

にお願いしたい。

全委員：了解。

5 プレゼンテーション

(傍聴者 4名入室)

(提案者 鎌倉市芸術文化振興財団・国際ビルサービス共同事業体

代表団体:公益財団法人鎌倉市芸術文化振興財団 3名入室)

委員長：本日のプレゼンテーション及びヒアリングの進め方について事務局から説明する。

事務局：本市は提案者を令和3年度、令和4年度の2箇年の鎌倉市文学館指定管理者として指名した。本日、提案内容を審査する。今回の提案の中で特に強調したい点や補足したい点を中心に説明をお願いする。時間は15分以内でお願いする。10分経過した時点で残り5分間であることを知らせる。

委員長：プレゼンテーション後、公開部分と非公開部分について、45分間程度ヒアリングを行う。提案団体から自己紹介をお願いする。

提案者：(自己紹介)

委員長：それではプレゼンテーションをお願いしたい。

提案者：私共は鎌倉市芸術文化振興財団・国際ビルサービスの2団体からなる共同事業体である。代表団体である鎌倉市芸術文化振興財団は長年にわたり文化施設を運営してきた。文学館の管理運営には平成13年度から19年間携わり、その間、東日本大震災、大型台風、本年の新型コロナウイルス感染症の拡大などの様々なことがあった。しかし、これらに対応して運営してきた。構成団体の国際ビルサービス株式会社は、1985年に文学館が開館して以来、35年経過した建物と施設の特性を理解し維持管理してきた。

鎌倉文学館の運営の基本方針について述べる。鎌倉は川端康成や多くの文学者が創作の場所に選んだ、芸術と文化を大切にしてきたまちである。鎌倉文学館の使命は彼らが育んだ文学と、鎌倉の別荘文化を伝える歴史的建物を活用し未来へ伝えることである。本年の2月末から6月の初めまで、鎌倉文学館は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため休館した。6月9日から再開館したところ、来館者から再開館に対する感謝の言葉をいただき、私たちは文学館のもつ社会的な役割を改めて強く認識した。

博物館の社会的役割については、最近、主にヨーロッパの博物館・美術館などで重要視されるようになり、昨年開催された国際博物館会議京都大会で博物館の使命の再定義が議論された。本年4月に鎌倉市が策定した「第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画」でも、これに近い考え方が示された。私たちは長年の文学館の管理運営で得た経験やつながりを活かし、市民の財産である文学資料や歴史ある建物を適切に管理活用し次の世代に伝えるため、研究や普及活動を行い、市民

の芸術文化の振興に努める。さらに、鎌倉文学館の特徴である、庭園の活用や、地域と協力したイベントを開催し、地域に貢献できる観光資源としての利用を高めていく。「第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画」で、鎌倉市が「SDGs」「共創」「共生」に配慮し実現を目指すと書かれた「古都としての風格を保ちながら生きる喜びと新しい魅力を創造するまちへ」に寄与するよう運営していく。

続いて、私たちの基本方針である「守る」「つながる」「広める」の3つの柱について述べる。

まず、「守る」についてであるが、災害や感染症から来館者を守る、歴史的建築物や庭園を適切に活用していく、さらに未来の担い手である子どもたちをこども文学賞などを通して育む、文学館を担う人材を育成するため、インターンシップや学芸員自実習を積極的に受け入れる。

次に「つながる」についてである。調査・研究したことをつなげるため、展覧会や普及事業を通して様々な文学者や専門家と連携する。文学館資料の寄贈や全国の文学館とつながり、調査・研究に活かす。また、鎌倉市が構想するエコミュージアムの実現に向け、その中心的組織である鎌倉国宝館や鎌倉歴史文化交流館とつながる。さらに、市民、地域の商店街、寺社や各団体と連携し、まちに支えられる文学館を作っていく。これまで長谷の市、長谷の灯かりなど地域のイベントに参加して地域のイベントに地域とつながり連携して参加してきた。これからも地域と関係を深めることにより、市が構想する何度でも訪れたい持続可能な観光都市の実現に寄与する。

3つ目は「広める」についてである。様々な方法で鎌倉文学館と鎌倉の魅力を発信していく。魅力的な幅広い展覧会、普及活動などを通して、様々な興味を持つ方に文学に触れられる取り組みを行い、芸術文化に親しむことができる機会を作る。ホームページ、ポスター、チラシ、SNSを活用し、鎌倉と文学館の魅力を広く発信していく。また、地域の保育園・幼稚園、高齢者福祉施設の方に庭園を憩いの場として認知され、幅広い世代の方々に利用していただいている。新たに、福祉の観点から市内の子育て世代の方の入館料を無料にして保育環境の充実を図る。

展示事業と普及事業について述べる。展示事業は、これまで鎌倉にゆかりのある源氏物語の成立から現在までを紹介した「スーパーストーリー源氏物語」、文学を取り扱った「ビブリア古書堂の事件手帖」など、様々な観点からオリジナルの展示を行ってきた。そして展覧会の図録も春と秋に年2回発行している。なかでも「漱石からの手紙 漱石への手紙」の図録は、東大比較文學會に高く評価された。次の2年間も私たちならではの視点で理論的な展覧会を開催していく。令和3年度の特展「作家のきもち」は作家の感情をテーマに、夏目漱石や太宰治らが創作や人間関係について感情をどうしていたかについて紹介しその実情に迫るもの

にする。令和4年度春の「文学で読む鎌倉幕府黎明期」は、大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に関連し、源平の合戦から鎌倉幕府が確立するまでを文学を通して描く。開催にあたっては、鎌倉国宝館・鎌倉歴史文化交流館・鎌倉市図書館の仙覚文庫と協力して行う。同じく令和4年度秋の「今と生きる文学」は多様性など現代の問題を文学の視点から発信し続ける。文芸雑誌の編集者と協力してリアルタイムの文学を紹介する。常設展示は、鎌倉ゆかりの文学を年4回の展示替えをしながら開催していく。さらに、作家の記念日にはテーマを設けた特集展示を企画している。令和3年夏には「オリンピックと文学者」を、令和4年秋には詩人の萩原朔太郎の没後80年展を企画し、前橋文学館が中心となり、全国数十館の文学館が大規模に連携する朔太郎大全に参加する。また、毎年3月には「震災を忘れない」をテーマに全国文学館協議会共同展示「文学と天災地変」を開催する。

普及事業は、これまで子供向けワークショップから朗読ワークショップ、文学講演会など幅広い活動を行ってきた。本年は新型コロナウイルス感染予防のため集まるのが難しかったため、動画での配信を行った。今後も状況を見ながら普及事業に取り組んでいく。普及事業で強調したいことは、子どもたちが文学に親しむよう始めた子ども文学賞である。本年は9年目を迎え、北海道から九州まで過去最高の1,200件の応募があった。新型コロナウイルス感染予防のため表彰式を行わず、YouTubeで表彰式を行った。子どもたちのため、文学の発展のため継続して行っていく。

私たちはこれらの豊富な経験を活かし、鎌倉文学館ならではの多彩なテーマで活動を行い、文学を創造するまちの実現に向け活動していく。

本年は新型コロナウイルス感染予防の対応で苦労した。これから鎌倉文学館はポストコロナの時代にどのように展示していくか、あるいは広げるか。広げるという意味では、SNSや様々な方法を使って発信していかなければならない。川端康成の展示などはYouTubeやSNSを最大限使って発信していくこととなる。

## 7 ヒアリング

委員長：それではヒアリングを開始する。

委員：提案書1頁の「第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画」にある「SDGs」

「共創」「共生」に配慮するとある。まとめて41頁の利用案内に記載があるが、2頁の基本方針「つながる」か、29頁の「様々な人」というところに記載があるべきではないか。多文化共生、パートナーシップは全体として取り組んでいくのか、広報等利用案内のみになるのか。

提案者：「SDGs」の17項目の中で、文学館が取組んでいけそうなところは、町づくり、紙やプラを多く使うので環境問題、地域連携、多文化共生が貢献できるのではないか。「SDGs」とはつきり記載がなくても、鎌倉市の考え方で各内容についてを記載し提案している。

- 委員：「共創」「共生」の考え方は館の大きな方針か。部分的なものか。
- 提案者：「共創」「共生」は、つながる、ひろげるに関わるもので、その考え方を踏襲していく。
- 委員：31頁の文学専門図書館としての機能強化とあるが、どのような考えか。
- 文学専門図書館とあげた意図、具体的に説明してほしい。
- 提案者：文学専門図書館として、鎌倉ゆかりの文学者の資料を収集する。中央図書館などでは収集が難しい図書を積極的に収集し、市民に提供してゆく。専門書・全集は図書館では閲覧が難しいので、その部分を強化する。
- 委員：今後、専門図書館としての強化を図るということでよいか。
- 提案者：中央図書館、市民などから問い合わせがある。文学館にない図書でも国会図書館や近代文学館など紹介できるレファレンスとしても、文学専門図書館として機能強化していく。
- 委員：17頁の収支予算書で、限られた収入の中で限られたパフォーマンス・事業をする提案だが、コロナなど緊急事態、自然災害、イレギュラーなことが発生したときのために、どういう財務対応ができるのか。予算がタイトな中、余裕をもたせている部分はあるのか。
- 提案者：支出の中で、庭園管理や修繕は読めない部分もある。施設管理運営費の中に、ある程度の余力を持たせて予算だてしている。
- 委員長：柔軟な対応ができる財務をお願いしたい。
- 委員：学芸員の多言語能力はどうか、パンフレットに多言語とあるが、学芸員自身の英語圏以外の言語力はどうか。
- 提案者：英語が堪能な職員が一人いる。A I 翻訳併用を基本とし、ダブルチェックで英語は対応している。多言語に関しては、中国・韓国からの来館者が新型コロナ感染拡大による休館前までは多かった。英語からA I 翻訳し、いろいろな方にチェックしてもらっている。
- 委員：30頁の市民・地域とつながる部分で、(1)に施設・企業・機関との連携とあるが、市民との具体的な連携・協同の実例はあるか。
- 提案者：第2期に市民と「狂歌酒百首」の冊子を作製した。また、こども文学賞の時に朗読ボランティアをお願いしたり、夏の展覧会時の子供サポートなどをして、市民とつながっている。
- 委員：市民ボランティアと連携とあるが、登録人数、活動期間、活動内容、館からの研修、自主勉強会など、実情を知りたい。
- 提案者：組織としてはできていない。10年以上続けていた図書整理ボランティアが1名いたが、コロナの影響等によりやめた。夏の展覧会時の子供サポートが2名程度、こども文学賞の朗読ボランティアが1名である。組織形成できていないので、まず展示解説ボランティアについてマニュアルを作成しているが、コロナの影響も

あるので、次期に組織作りできればと考えている。

委員：30頁の未来を担う世代への取り組みについて、小・中学生に対して熱心にされているが、「こども文学賞」は全国対象か。

提案者：応募は全国から1,200人以上ある。関東地方や鎌倉市内からが一番多いが北海道から沖縄まで多くの応募がある。男女比も同じ位で、小学生は半分以上が男子であることも特徴である。

委員：文学に目覚めるのは中・高学生。特に高校時代に関心をもつ。小・中学校との連携はあるが、高校・大学との連携が弱いのではないだろうか。

このあたりの考えはどうか。

提案者：市内の中学2年生が毎年全員応募している。1つの高校が年に1度応募している。他の高校とも連携がとれないか次期に検討したい。

委員：高校や大学の文学研究会などへの後押しはないのか。

提案者：内容検討も必要なので取り組みが難しいが、アプローチはしていく。

委員：仙覚文庫との連携はどのようにするのか。

提案者：仙覚文庫はできたばかりで運営が見えてこない。仙覚文庫がもっている資料を利用して展示したり、講座・講演会などを開催していきたい。

委員：バリアフリー・ユニバーサルデザインの表記がないが、どういう取り組みがあるか。52頁の受付やホームページ・館内案内について、ユニバーサルデザインや幅広い方への利用についての記載がなかったが、どういう考えか。

提案者：建物は文化財であり段差解消が難しい。人手のサポート、ケアをしている。聴覚障害の方には資料の読み上げなどを行っている。今も細やかにケアしている。提案書に丁寧に記載していないが、ユニバーサルデザインに関しては、車椅子で利用できるトイレが館内に一つあり、また館外のトイレでおむつ替えできるように改修した。また、庭園内の段差が多いので、アスファルト舗装・段差解消を図っている。25頁に記載しているとおり、障害者理解促進研修を受講し、取り組んでいく。

委員：研修は全職員受講してほしい。ホームページのユニバーサル化は怎么样了るか。

提案者：次期で検討していく。他館を研究中である。

委員：4頁に執行体制組織図があるが、非常勤職員の勤務日数、雇用期間の制限の有無についてお聞きしたい。

提案者：非正規雇用は1年毎の更新。常勤の非正規は3年継続雇用の場合昇給があり、5年目で正職員・無期雇用の道がある。非常勤の勤務日数は月12日である。

委員：外国語の表記について、アジア圏からの観光客が増えてきた中で、対アジア対策が必要ではないか。パンフレット等の英語表記だけでよいのか。日本文学に興味を持つ方も多い。



提案者：次期に検討している。ただキャプション等は経費がかさみむずかしい。スマートフォンの翻訳アプリの利用についてなど、他館を研究中である。

委員：紙や封筒の資料保存の方法について確認したい。指針に沿って管理しているのか、現状の管理方法を知りたい。

提案者：紙の資料はガスが発生しないよう、ポリプロピレンの袋に中性紙を入れ、その中に紙の資料を入れ、バーチカル保存している。水平状態で保管すると今の収蔵庫では収納しきれない。脱炭素には取り組めていない。他館に聞いたところ、紙の脱炭素はできても、インクの脱炭素はできないようである。コストの検討も含め、市と一緒に取り組んでいきたい。

委員：43頁の広報活動について伺いたい。入場者に対し、どのように文学館を知ったかのアンケートをとって分析はしているか。

提案者：分析はしている。3、4年位前から、紙やTVよりもSNS・ホームページで情報入手した人が多くなっている。

委員：15頁の外部SNS、旅行サイトの分析をするとあるが、結果はどうだったか。

提案者：「トリップアドバイザー」で表彰されたことがある。「じゃらん」などでも評価が高い。コメント欄もチェック・分析している。

委員：専門委員会での評価はどうか。

提案者：文学の専門家なので、展覧会・図録についての意見が多い。マスコミで情報を見た時の感想などの評価も多い。

委員：34頁の普及活動について、新たな試み、新しい生活様式の対応についてあまり触れられていない。アウトリーチやオンラインについてどのように取り組んでいくか。

提案者：ユニバーサルに近い考え方かと思うが、オンラインは設備等で難しい面がある。4つの文学講座についてオンラインで配信している。ビデオ配信でより広い人々に見てもらえているので、これから大切になると理解している。

委員：外国人の入館者数は把握しているか。

提案者：コロナ前で全入館者の1割未満だった。

委員：ネットではなくてラジオを利用するもの良いのではないか。

提案者：鎌倉コミュニティFMで10分の枠をいただき、文学の話題・展示の話の他、作品の朗読をしている。視覚だけでなく、聴覚的にも、今後取り組んでいきたい。また、今後、朗読ワークショップを公開する予定である。

委員：ポッドキャストの活用という方法もあるが。

提案者：朗読などに向いていると思う。今後活用に向け検討する。

委員長：他に質問がないようなので、以上でヒアリングの第一部を終了する。傍聴者の方には退場をお願いします。

(傍聴者退場)

(非公開部分：第二部ヒアリング)

(提案者退場)

委員長：それでは、各委員にはヒアリングをもとに最終の採点をお願いしたい。事務局には採点を集計し結果報告をお願いしたい。

(事務局集計)

(報告書文案検討)

事務局：採点の集計結果を報告する。100点満点中81点である。

委員長：採点の集計結果が81点で、当選定委員会で定めた選定合格点60点を超えているので、提案者を鎌倉市文学館第4期指定管理者候補者として選定してよいか。

全委員：異議なし

委員長：それでは、鎌倉市長宛にその旨を報告することとする。報告書文案について検討していただきたい。

(報告書文案検討)

事務局：報告書文案読み上げ

委員長：当委員会後に、鎌倉市長宛に報告書を提出する。事務局から連絡事項等あるか。

事務局：鎌倉市長への報告をもとに、指定管理者候補者を決定し、鎌倉市議会2月定例会へ「指定管理者の指定について」の議案を提案し、議決後に提案者を指定管理者として指定する。

委員長：以上で、本日の委員会を終了する。